

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

NERIMA
ART
MUSEUM

2016
練馬区立美術館ニュース

NEWS

No. 20



表紙図版：朝井閑右衛門《丘の上》1936年 油彩・カンヴァス 神奈川県立近代美術館

CONTENTS

- 03 「素晴らしい商品 (コンテンツ) で、お役に立つ」
- 04 ネリビーの「美術の森」観察日記
- 06 Museum Calendar
- 08 展覧会紹介
- 15 教育普及事業のご案内
- 16 新収蔵作品
- 20 公募展のご案内
- 21 貸出施設について
- 22 施設案内
- 23 交通案内

「素晴らしい商品 (コンテンツ) で、お役に立つ」

昨年度は開館30周年の年でした。

3つの記念展を開催しました。

予想を遥かに上回るお客様にお越し頂きました。

「小林清親展」は、没後100年、新発見の肉筆画もあり、ちょっとした清親ブームが起きました。

「舟越保武展」は、その静謐な彫刻世界に「心洗われる感動的な展覧会」とのお声が沢山寄せられ、皇后陛下の行啓も頂きました。

「アルフレッド・シスレー展」、練馬初の印象派画家展で、「テクノロジーで甦ったセーヌ川と印象派の切り口が斬新」との評価も頂き、開館以来最多数のお客様をお迎えしました。

現在は「国芳イズム—歌川国芳とその系脈 武蔵野の洋画家 恵俊彦コレクション展」を好評・開催中です。

本年も「没後50年“日本のルソー”横井弘三の世界展」「しりあがり寿の現代美術回・転・展」「朝井閑右衛門展」「粟津則雄コレクション展」「田沼武能展」(肖像写真)など素朴・軽妙・重厚・写実な布陣で臨みます。

「幻想美術動物園」としてリニューアルオープンした、美術館の前庭「美術の森緑地」は練馬区の人口を上回る75万人の方々にご利用頂き、練馬の新たな名所として定着しつつあります。

練馬区立美術館は、内も外も「今をときめく美で、心ときめく美術館でありたい」と願っています。

ところで、宣伝(PR)の基本理念というのがあります。

「ここにこんなに素晴らしい商品がある。これを何とか工夫してお客様にお伝えし分かって頂きたい。そして生活に役立てて頂きたい」とするものです。

素晴らしい商品には、づくり手の魂と文化が凝縮されています。その商品を、表現を工夫し、メディアを駆使してお伝えするのが宣伝の仕事です。

あくまで「品質ありき」です。いい商品でなければ宣伝できません。やってもあたりません。いつかはあっても長続きしません。信用を築けないのです。

美術館も然りです。展覧会や教育普及事業などコンテンツに磨きをかけ、あの手にこの手で、PRする。そしてお客様のお役に立つ。今こそ、コンテンツ力とPR力が問われています。

美術館31年目、館長7年目にあたります。意を新たに「宣伝の基本理念」に立ち返ってみました。

謙虚に真摯に歩んでまいります。

一層のご指導・ご支援をお願い申し上げます。



練馬区立美術館
館長 若林 覚



ボクはネリビー
よろしくね!

ネリビーの 「美術の森」観察日記

ボクはネリビー。練馬区立美術館のロゴ・マークから生まれた。

「美術の森緑地」幻想美術動物園の案内人。

緑地の3つの入り口にボクと弟、妹がいる。

ボクは「緑の風吹くまち、練馬」の緑、弟は青、妹はピンクだ。

3人で緑地を見守っている。

ここにはボクたちを含め32(人)もいるけど、みんな幸せそうだ。

時々、あちこちの公園や、美術館の庭でボクたちの仲間を見るけど、たいてい

ボツンと立って寂しそうだ。むつかしい顔や形をされていて、人を引き寄せない。

おまけに「この線から入ってはいけません。触ってはいけません。」とくる。

人に親しまれ、愛され、夢と感動や生きる力を与えるのが役目なのに、これでは

はいけません。
その点、ボクらはちがう。「触ってもいい、坐ってもいい、登っても(ちょっと危

ないけど)いい。」だ。
毎日、芝生の上を駆け回ったり、寝転がったり、坐ったり、乗ったり、の子どもたち

で賑わいだ。

この前なんか、ライオン君とトラ君が話してた。
「ボクらの背中に乗るんだね。それも1人や2人ではない。一緒に3人も、4人も、

そしてハイ・ポーズ。くすぐったいやら重いやら、嬉しいやら。」
そしたら、ゾウ君が「まさか、ボクの上に乗る子はいないと思ってたけど、いるんだね。

スルスルと登って、背中に立って、両手を高くと上げ、タイタニックのディカプリオの真似をするんだ。
キリン君も「こんなカラフルなキリンいないから、からかわれると思ってたら、

しっぽにぶら下がったり、登ったり、頬ずりされたり、すっかり気に入られたみたい。」

ゴリラ君も「正月には腕にビール献げる人がいたんだ。何でって聞いたら、サル年

だろ。」ってんだ。



入り口のタマリユウの草でできたクマ君なんて格好つけているよ。「花の種が飛んできて、頭で咲いた。かんざしみたいだ、可愛いだろ。」って。

時々、水やりの水がよだれみたいに出るんだけど、この前は寒くて凍ったんだ。あごからよだれのツララができたって、子どもたちが大はしゃぎだった。

イヌ君の上に坐って、子どもたちが話してた。

「ボクは大人になったら、シマウマを作りたい。タテ、ヨコ、ナナメ、いろんな色のシマでいっぱいシマウマだ。」

「私はチョウよ。ここ、トンボはいるけどチョウはいない。大きなチョウ、顔は人間の顔で、ついでに花も作る。1年中咲いてる。そこで羽ばたくのよ。」

嬉しいね。「幻想美術動物園」

子どもたちの感性が育ち、夢が広がる。

もうすぐ1年。延べ75万人もの人たちが楽しんでる。練馬区の人口より多いね。案内人冥利につきるってものだ。

子どもだけじゃない。

やがて、枯れ芝が芽生え、緑になる。青い空、ピンクの桜。

芝生に寝転がって、甘酸っぱい話をするもよし。悔恨に涙するもよし。

時勢を憂うもよし。将来の夢や明日への決意を語るもよし。

老若男女のみんなに楽しんでもらいたいんだ。

さて、ボクたち3人、次は、美術館や緑地を出て、まちに繰り出すとするか……。

案内人(ネリビー兄、弟、妹より)

Museum Calendar

		2階 展示室1	3階 展示室2・3
2016	4 Apr	没後50年“日本のルソー” 横井弘三の世界展 2016年4月17日(日) — 6月5日(日) 1	
	5 May		
	6 Jun	コレクション展 シリーズ時代と美術4 [1990～2000年代 辰野登惠子《Untitled 92-B》を中心に] (仮) 2 2016年6月10日(金) — 6月26日(日)	第62回 練馬区美術家協会展 2016年6月10日(金) — 6月19日(日)
	7 Jul	しりあがり寿の現代美術 回・転・展 3 2016年7月3日(日) — 9月4日(日)	
	8 Aug		
	9 Sep	朝井閑右衛門展 (仮) 4 2016年9月18日(日) — 11月13日(日)	
	10 Oct		
	11 Nov	粟津則雄コレクション展 5 “思考する眼”の向こうに (仮) 2016年11月19日(土) — 2017年2月12日(日)	
	12 Dec		
2017	1 Jan		練馬区中学校生徒作品展 2017年1月14日(土) — 1月18日(水) 練馬区小学校連合同工展 2017年1月21日(土) — 1月26日(木) 練馬区小中学校連合書きぞめ展 2017年1月28日(土) — 1月29日(日)
	2 Feb		第48回練馬区民美術展 2017年2月4日(土) — 2月12日(日)
	3 Mar	田沼武能展 6 時代を刻んだ貌 時代に刻まれた顔 (仮) 2017年2月23日(木) — 4月9日(日)	お蔵出し! コレクション展 (仮) 7 2017年2月23日(木) — 4月9日(日)
	4 Apr		

グレー色の展示会は無料です。尚、各展示会については変更になる場合も

ございますので、詳細は随時ホームページまたはねりま区報などをご覧ください。

展覧会紹介

1 没後50年“日本のルソー” 横井弘三の世界展 2016年4月17日(日) — 6月5日(日)

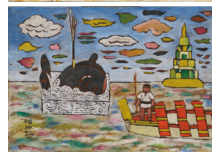
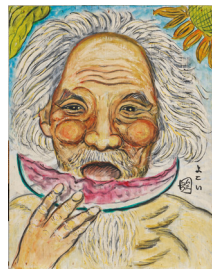
長野県飯田市に生まれた横井弘三(よこいこうぞう)(1889~1965)は、1892年(明治25)に上京し、独学で絵画を学びます。1915年(大正4)の第2回二科展に初出品し、期待の新人画家に贈られる第一回樗牛賞を受賞するなど、はやくから作品が認められました。彼の作品は人を微笑ませるのびやかな魅力を持ち、“日本のアンリ・ルソー”とも呼ばれ、高い評価を受けました。

1923年(大正12)の関東大震災をきっかけに二科会を離れた横井は、漆絵や焼き絵など新たな技法の開発に取り組む一方、「理想展」と呼ぶ無鑑査、自由出品のアンデパンダン展を自ら組織するなど、自分だけの表現を追い求め続けます。中央画壇から離れた横井の画業は必ずしも恵まれたものではありませんでしたが、戦争を機に長野市に移住した晩年の約20年間は、地元の支援者に恵まれ、精力的に制作活動を展開しました。彼の作品は今もなお寄留した寺や知人宅、小学校などに多く残され、愛されています。

多くの作品が愛好家による個人所蔵であるため、まとってみる機会が少ない横井作品。本展では、没後50年を機に、200点以上の作品を一堂に会し、いまだ明らかでない横井の画業の全貌に迫ります。

(共催：読売新聞社、美術館連絡協議会)

観覧料：一般 800円



左：《月夜の踊り》1956年 油彩・板 信州大学教育学部附属長野小学校

右上：《自画像》制作年不詳 油彩・板 個人蔵

右下：《クジラのおモチャ》1925年頃 油彩・板 個人蔵

2 コレクション展 シリーズ時代と美術4 「1990~2000年代 辰野登恵子《Untitled 92-8》を中心に」(仮) 2016年6月10日(金) — 6月26日(日)

練馬区立美術館の開館30周年に際し、連続して開催しているコレクション展の最終回です。

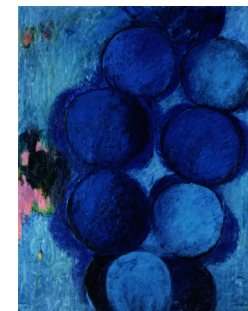
当館の所蔵作品約6,700点(寄託作品含む)は、近現代の日本の作家を中心に蒐集されてきました。「時代と美術」と名付けたこのシリーズは、作品や作家を単体で眺めるのではなく、それぞれが時代の中でどのような位置を示してきたのかという視点を持ち展開していきます。

今回は1990~2000年代に焦点を当てます。バブル崩壊後、ソ連の崩壊や湾岸戦争、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件、ニューヨーク同時多発テロといった、これまでの基盤の崩れるような出来事が相次ぎ、またインターネットに代表される科学技術の急速な発達で、人々の生活は大きく変化していきました。美術では、特定の技法やジャンルに囚われない作家や作品がさらに増えていきました。百貨店に併設された美術館が軒並み閉館する半面、東京都立現代美術館や九州国立博物館、東京ミッドタウンなど大型施設のオープンや、越後妻有をはじめとする地域の芸術祭が盛んになるなど、作品展示の場所や方法にも変化が現れてきています。

本展では、抽象的な表現を追求した辰野登恵子を中心に、浅見貴子、石原友明、伊藤彬、岡村桂三郎、久野和洋、須田悦弘、寺田真由美、津田一江、森脇正人、淀井彩子らの作品約40点から、この時代を眺めます。

※会場は2階展示室のみ

観覧料：無料



左：辰野登恵子《Untitled 92-8》1992年 油彩・カンヴァス

右：寺田真由美《fruitbowl 040803-1》2004年 セラチンシルバープリント

3 しりあがり寿の現代美術 回・転・展

2016年7月3日(日) — 9月4日(日)

ことぶき
しりあがり寿(1958生)は、朝日新聞に連載中の「地球防衛家のヒトビト」や「野次喜多 in DEEP」をはじめ、数多くの独特の批評精神に満ちたギャグ漫画で知られています。その仕事は文芸春秋漫画賞や手塚治虫文化賞・優秀賞を受賞するなど高い評価を得ており、最近では、東日本大震災後の日本をテーマにした漫画集「あの日からのマンガ」が大きな話題となりました。

その一方で、墨絵、アニメーションなどの手法を用いて、自身の漫画と関連しながらもそれ自体で自律した現代アート作品も発表しています。また近年、様々な日用品などを回転させる一連のインスタレーションも展開させています。

自身初の美術館での個展となる本展では、これまでの多様な仕事に触れつつ、回転インスタレーションを中心に新作を展開します。日常の事物、映像など多岐にわたる品々を様々な方法でひたすら回転させ、シンプルな動きの中に、命を吹き込む生命感、固定概念の破壊、関係性を喪失した空虚さなど多面的な意味を投げかけます。漫画家しりあがり寿とは一味違う、新しい「しりあがり寿ワールド」を体感する展覧会です。

(共催：朝日新聞社)
観覧料：一般 800 円



左：「野次喜多 in DEEP」
右：ブリキの方舟 2011年 会場：広島市現代美術館 撮影：田山達之

4 朝井閑右衛門展(仮)

2016年9月18日(日) — 11月13日(日)

あさいかんえもん
朝井閑右衛門(1901～1983)は、1926年(大正15)の第13回二科展に初入選した後、光風会を中心に作品を発表しました。1936年(昭和11)の文部省美術展覧会には、謎めいた群像の大作《丘の上》を発表し、文部大臣賞を受賞。一躍画壇の寵児となります。

戦後は、既成の画壇から距離をとりつつ、電線、薔薇、ガラス台鉢、ドン・キホーテ、道化や詩人たちの肖像など、同じモチーフを何度も繰り返して描き続けて独自の絵画世界を生み出しました。

横須賀市田浦や鎌倉市由比ガ浜に長く住んだことが知られる朝井ですが、初期の代表作《丘の上》は、練馬にあったアトリエ長屋在住の時期に描かれた作品であり、朝井閑右衛門は練馬ゆかりの作家でもあります。

本展では、初期から晩年まで、写実と幻想の狭間で制作を続け、独自の地歩を築いた朝井の画業の全貌をご紹介します。

(共催：読売新聞社、美術館連絡協議会)
観覧料：一般 800 円



左：《電線風景》1960年 油彩・カンヴァス 神奈川県立近代美術館
右：《丘の上》1936年 油彩・カンヴァス 神奈川県立近代美術館

5 粟津則雄コレクション展

“思考する眼”の向こうに(仮)
2016年11月19日(土) — 2017年2月12日(日)

あわつのお
粟津則雄氏(1927生)はオディロン・ルドンやパウル・クレーなど芸術家の評伝をはじめ、アルチュール・ランボーやカフカといった詩人・哲学者の訳書や評論など、フランスの文学、美術、音楽に対し深い造詣を持ちながら、正岡子規や萩原朔太郎、小林秀雄にも高い関心を抱き、研究・評論を続けてきました。

練馬区立美術館は2014年度に粟津氏の蒐集した美術品の数々、約100点の一括寄贈を受けました。

その中には評論・評伝の中で取り上げたルドンやジョルジュ・ルオー、アントニー・クラウベの版画、著作の表紙を飾った駒井哲郎、柄沢齊、親しく交流した麻田浩、池田満寿夫らの作品が含まれています。それらは、長年に亘り書齋に飾られた愛蔵の品で、粟津氏の眼、表現とともに歩み、その思考の一端を読み取ることができる意義深い作品ばかりです。

2006年より出版が続いていた『粟津則雄著作集』(思潮社)が完結することを機に当館所蔵の粟津コレクションの中から選りすぐりの作品、約50点を紹介します。

※会場は2階展示室のみ
観覧料：一般 300円



左：オディロン・ルドン《キリスト》1887年 リトグラフ・紙
右：麻田浩《神殿》1980年頃 エッチング・紙

6 田沼武能展

時代を刻んだ貌 時代に刻まれた顔(仮)
2017年2月23日(木) — 4月9日(日)

たぬまたけよし
写真家、田沼武能(1929生)は木村伊兵衛に師事。世界中の子供たちの姿を撮影する写真家として知られています。その一方で、『芸術新潮』や『タイムライフ』などの仕事をする中で、昭和の文壇、文化・芸術を担った著名人たちの“貌”を長年に亘り撮り続けてきました。

「人間大好き人間」を標榜する田沼がとらえた人々の表情には、被写体を振り出す鋭さとともに、温かで豊かな想いが投影されています。

本展では、野見山暁治、奥田元宋など練馬ゆかりの作家を含め、時代を代表する文化人らのポートレートを紹介します。

(共催：朝日新聞社[予定])
※会場は2階展示室のみ

観覧料：同時開催「お蔵出し! コレクション展(仮)」と共通で、一般 500円



左：「田崎廣助」1975年撮影
右：「棟方志功」1953年撮影

7 お蔵出し! コレクション展 (仮)

2017年2月23日(木) — 4月9日(日)

練馬区立美術館は、2015年に開館30年という記念の年を迎えました。中村善策の油彩《池畔新緑》(1978年)をコレクション第1号として迎え入れてから、この30年にわたって「日本近現代美術」を中心に作品を蒐集して参りました。その数は、寄託作品も合わせ、約6,700点にのぼります。作品購入が難しくなった現在でも、収蔵作品は毎年増え続け、また蒐集ジャンルも江戸絵画、西洋美術と少しずつ広がっています。美術館の核である収蔵作品の充実は、歴代学芸員の熱心な蒐集活動に裏打ちされていると同時に、貴重な作品をご寄贈・ご寄託くださいました方々のご厚意によっても支えられているのです。

今回は、コレクション約6,700点から、江戸・明治の絵画、現代の美術、新収蔵作品や「館長の選ぶ1点」など、様々な視点から厳選した約120点を紹介します。当館のコレクションを気軽に楽しんで頂くと同時に、皆様の1点を見つけて頂きたい展覧会です。

尚、このコレクション展にあわせて、13年ぶりに収蔵作品目録を発行予定です。

※会場は3階展示室のみ。

観覧料：同時開催「田沼武能展」と共通で、一般500円



左：池大雅《比叡山真景図》宝暦12年（1762） 紙本墨画淡彩 一幅
中：山口長男《野形》1960年 油彩・カンヴァス
右：鏡光《花と蝶》制作年不詳 油彩・カンヴァス

教育普及事業のご案内

子どもから大人の方までご参加いただけるよう、様々な内容をご用意しています。

1 展覧会関連事業 展覧会をもっと楽しむ

- ・ギャラリートーク
- ・実技講座・ワークショップ
- ・講演会
- ・コンサート・パフォーマンス
- ・鑑賞プログラム「トコトコ美術館」
(3～6歳の未就学児+保護者対象 年3回)



2 美術講座 美術に関する知識や技術を学ぶ

- ・美術史講座 (中学生以上対象 年2回)
- ・実技講座 (中学生以上対象 年3回)



3 美術館を楽しむワークショップ 人が集う場作り

- ・四季のみじたく (小学4年生以上対象 年4回)
- ・館内探検 (5歳～小学2年生対象 年1回)

※詳細は、ねりま区報または練馬区立美術館ホームページにて随時お知らせしています。

4 スクールプログラム 美術館の施設及び展覧会を学校の学習に

- ① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム

内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

2015年度は32校42回実施しました。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。

美術館サポーターの活動

現在45名がサポーターとして活動しています。

主な活動は、美術関連記事の新聞切抜き、イベントの会場受付、

サポータートーク、練馬ゆかりの作家調べなどです。

新収蔵作品

作品：計309点 資料：計15件



松岡映丘（新収蔵計3点）

左：《月》1917年 紙本墨画 一幅 38.0×52.5cm

右：《さつきまつ浜村》1928年 絹本着色 六曲一隻 101.5×189.0cm



松岡静野（新収蔵計1点）

《舞妓》大正期 絹本着色 一幅 52.2×41.1cm



森脇正人（新収蔵計7点）

左：《ある日の鯉のぼり》1975年 紙本着色 190.0×210.0cm

右：《またあした》1977年 紙本着色 177.5×221.0cm



早川芳彦（新収蔵計3点）

《機械静物》制作年不詳 油彩・カンヴァス 64.8×80.5cm



原 誠（新収蔵計129点）

左：《叶わぬ月》制作年不詳 油彩・カンヴァス 52.8×45.5cm

右：《逃げた鳥》1955年 パステル・紙 17.0×14.2cm



古賀忠雄（新収蔵計12点）

左：《蛙》1952年 ブロンズ 111.4×24.5×22.0cm

右：《練馬の男》1948年 ブロンズ 39.7×19.0×23.5cm



渡辺千尋（新収蔵計18点）

左：《午後の光景》1979年 エングレーヴィング・紙 24.8×30.0cm
 右：《柘榴Ⅳ（空）》2002年 カラーメゾチント・紙 18.0×12.0cm



滝瀬源一（新収蔵計49点）

左：《仏①》制作年不詳 スクラッチボード 42.2×32.5cm
 右：《仏②》制作年不詳 スクラッチボード 14.0×10.8cm

栗津則雄コレクション（新収蔵計86点）



麻田浩

左：《蝶の地（夜）》1970年代 油彩・カンヴァス 72.0×73.0cm
 右：《神殿》1980年頃 エッチング・紙 70.8×53.5cm



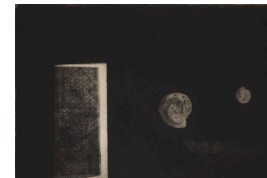
井上長三郎

左：《牛》1970年頃 油彩・カンヴァス 41.5×60.5cm
 右：《顔》1970年頃 油彩・アミアントカルトン 18.0×14.0cm



加藤清美

《Annunciation》1996年
 エッチング/アクアチント/ドライポイント・紙 57.0×71.5cm



駒井哲郎

《Intérieur》1968年 エッチング・紙 31.7×45.0cm

公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、年に一度「練馬区民美術展」を開催しています。

11月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、11月1日号のねりま区報に掲載の応募方法または区民美術展作品募集チラシ、当館ホームページをご覧ください。

第48回練馬区民美術展

会期：

2017年2月4日(土) — 2月12日(日)

応募資格：

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

募集作品について(予定)：

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)

日本画(水墨画、和紙絵など)

彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染色、押し花絵、切り絵など)



過去の展示風景

貸出施設について

皆さんに美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的にご参加いただくため、館内の施設を貸出しています。

ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

<利用できる施設>

区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。

1日を単位として、連続6日まで利用できます。

(展示・撤去作業の時間を含む)

※2016年度の企画展示室の貸出は、11月19日(土)～1月12日(木)の期間です。

名称	面積	使用料	貸出条件
一般展示室(2階)	85.5㎡	4,000円/日	
企画展示室Ⅰ 企画展示室Ⅱ	200㎡ (3階) 208㎡	16,000円/日 (2室分)	企画展示室Ⅰ・Ⅱは両室利用が原則

創作室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、

サークル等に貸出します。

午前・午後を単位として、1ヶ月に4件まで利用できます。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具等
創作室(2階)	111㎡	30名	午前 10:00-13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子) イーゼル、プレス機 ホワイトボード 石膏モデル等
			午後 14:00-18:00	1,600円	

※練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室の様子



創作室の様子

施設案内

開館時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）

休館日：毎週月曜日（ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）
年末年始（12月29日～1月3日）
展示替えなどによる準備期間中

観覧料：展覧会により異なります。
各展覧会ページをご覧ください。
なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料でご覧いただけます。
（年齢等の確認できるものを提示した場合に限る）

図録の販売：展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で販売しております。
通信販売の取扱いもございますので、お問い合わせください。

バリアフリー：
・当館の展示室は2階・3階にあります。
館内にはエレベーターを設置しております。
・誰でもトイレを設置しております。
・障害をお持ちの方は、
当館のご利用時に駐車場をお貸しできます。（事前予約制）
・館内で利用できる、車椅子・ベビーカーを用意しております。
（数に限りがあります）
・授乳用に部屋を用意いたします。お気軽にお声がけください。

その他の施設：
・喫茶コーナー（2階ロビー）
サンドイッチなどの軽食とドリンクの販売を行います。
※土日祝日のみの営業となります。
・貴井図書館（1階）
練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。

交通案内

鉄道 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

池袋駅から — 約16分（西武池袋線各停利用）

渋谷駅から — 約30分（東京メトロ副都心線内急行〈西武池袋線直通〉利用）

有楽町駅から — 約40分（東京メトロ有楽町線〈西武池袋線直通〉利用）

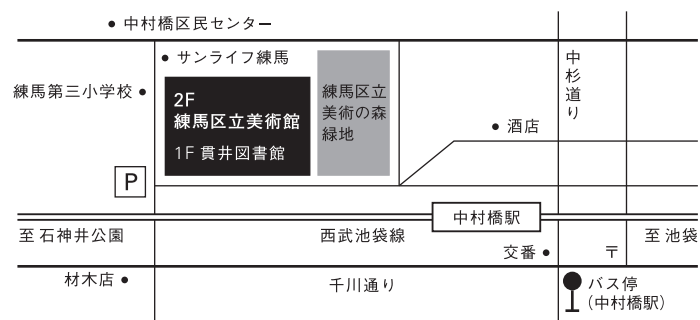
六本木駅から — 約40分（都営大江戸線利用、練馬駅で西武池袋線乗換）

バス 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口 — 中村橋駅【阿01】系統終点

荻窪駅北口 — 中村橋駅【荻06】系統終点

荻窪駅北口 — 練馬駅【荻07】系統「中村橋駅」下車



※駐車場はございません。（美術館周辺のコインパーキング（有料）をご利用ください）
障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。



〒176-0021 東京都練馬区貴井 1-36-16 TEL 03-3577-1821

公益財団法人 練馬区文化振興協会
<http://www.neribun.or.jp/museum/>

練馬区立美術館ニュース 第20号

発行：練馬区立美術館 発行年月日：平成28年4月1日（年1回）
印刷：LIVE ART BOOKS デザイン：瀬戸山雅彦

都心からも
意外と近い！